



全国健康保険協会（協会けんぽ）のジェネリック医薬品使用促進の取り組み

全国健康保険協会 沖縄支部

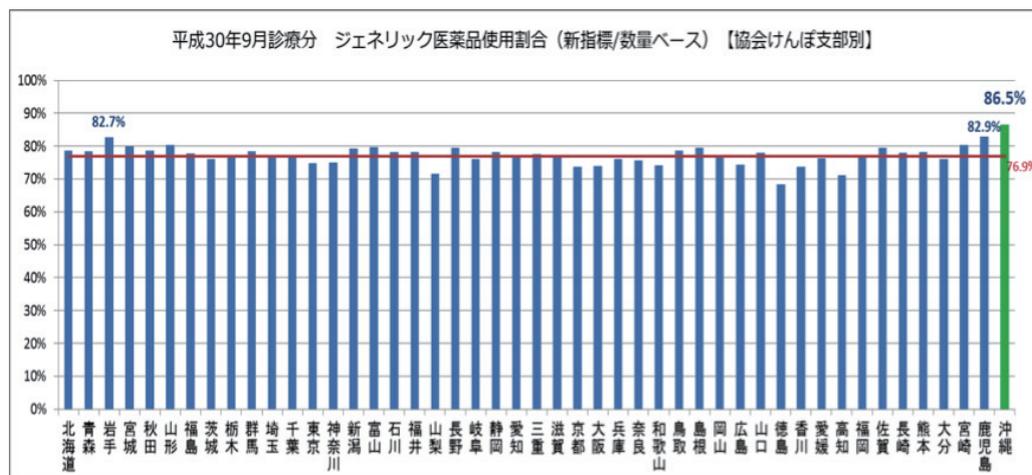
1. 協会けんぽ沖縄支部の現状

協会けんぽ沖縄支部のジェネリック医薬品使用割合は平成30年9月分で86.5%と協会けんぽ全支部の中で最も高く、全支部平均の76.9%を大きく上回っています。（図表1）

協会けんぽ発足当時から沖縄支部のジェネリック医薬品使用割合は高く、その後も他支部同様、積極的にジェネリック医薬品使用促進の取り組みを行うことでジェネリック医薬品使用割合を伸ばし、現在も1位を維持しています。

沖縄県のジェネリック医薬品使用割合が以前から高い要因として、推測ではありますが、復帰前の医療保険制度では所得水準が低いなか現金給付であったため、医師・薬剤師も患者の金銭的負担を考慮して、できるだけ安価な薬を積極的に処方し、ジェネリック医薬品を受け入れやすい土壌が形成されたのではないかと考えております。

【図表1】



2. 協会けんぽ沖縄支部の取組

(加入者への働きかけ)

◆ジェネリック軽減額通知サービスの実施



協会けんぽでは、現在使っている医薬品をジェネリック医薬品に切り替えた場合のお薬代の軽減可能額を加入者に通知する「ジェネリック医薬品の軽減額通知サービス」を年に2回実施しています。

平成29年度では沖縄支部における対象者約6万3千人に通知を送付し、そのうち約2万人がジェネリック医薬品に切り替えており（切替率31.9%）、その推定軽減効果額はおよそ4億3千万円にもなります（図表2）。

【図表2】

	通知送付者数	切替者数	切替率	軽減額（年）
29年度計	63,369人	20,226人	31.9%	約4.3億円
※軽減額（年）は 軽減額/月×12か月で算出した単純推計値				

◆研修会でのジェネリック医薬品に関する講話の実施

沖縄支部では毎年、年金機構と合同で事業所の社会保険事務担当者を対象とした研修会を実施しています。平成30年度は沖縄県薬剤師会より講師をお招きし、研修会のなかでジェネリック医薬品に関する講話を実施しました。11月9日と11月13日の2回合計で156名の参加者にジェネリック医薬品について周知することができました。

また、研修会資料とともにジェネリック医薬品希望シールとジェネリック医薬品のリーフレットを配布し、ジェネリック医薬品についての周知を図りました。

◆新規適用事業所へのリーフレット及び希望シールの送付

沖縄支部では毎月、新規適用事業所に対し、協会けんぽの事業案内のパンフレットや健診の案内と一緒にジェネリック医薬品使用促進チラシとジェネリック医薬品希望促進シールを送付し、周知を図っています。

◆ジェネリック医薬品に関するプレスリリースの実施

平成29年1月31日にジェネリック医薬品軽減額通知に関するプレスリリース、更に平成29年3月9日には協会けんぽ沖縄支部のジェネリック医薬品使用割合が国の目標値80%を全国第一号で突破し80.4%になったことに関するプレスリリースを実施した結果、地元新聞に記事が掲載され、広く県民にジェネリック医薬品について周知を図ることができました。今後も機会をとらえてジェネリック医薬品に関するプレスリリースを実施してまいります。



●プレスリリース

報道関係者各位

平成29年1月31日

Press Release

全国健康保険協会 沖縄支部
http://www.jshkaokanpo.or.jp/

【お問い合わせ先】
 〒900-8512 那覇市安里11-4 おきでACU-9 全国健康保険協会沖縄支部 総務・大塚 真山
 TEL:098-951-2248 FAX:098-951-2285

ジェネリック医薬品に切り替えた場合の負担軽減額をお知らせします
 ～沖縄支部の使用割合は全国第1位で推移 さらなる使用促進を図る～

協会けんぽでは、加入者の負担軽減や医療費削減の取組を図るため、「ジェネリック医薬品(後発医薬品)」の普及を推進しています。その取組の一環として、処方されたお薬をジェネリック医薬品に切り替えた場合の自己負担の軽減額をお知らせする「ジェネリック医薬品軽減額通知」を加入者の皆様へ年2回お送りしています。

平成28年度の軽減額通知は、高血圧症や糖尿病など一時的に長期服用される先発医薬品を対象に20歳以上の加入者に対して実施し、平成28年8月に続き平成29年2月に第2回目の軽減額通知をお送りする予定です。

平成21年度から開始した軽減額通知は、沖縄支部の平成27年度までの累計で要へ112,521人にお送り、これまで延べ34,503人が切り替えを行っています。その中平均は30.7%と全国(支部別)で2番目に高く、切り替えによる1人当たりの軽減総額(月額)は、全国平均1,447円を上回る1,650円となっています。

沖縄支部のジェネリック医薬品使用割合は、平成28年9月診療分で78.7%と全国(支部別)で最も高く、総務省による使用割合となった平成26年4月以降、全国1位の状況が続いています。その一方で、使用割合の伸びは平成27年4月診療分以降、前年同月比において全国で最も低い状況にあります。

国の目標値では、使用割合を「平成30～32年度末までのなるべく早い時期に80%以上とする」とし、協会けんぽでも、平成30年度以降の使用割合の実績が保険料率へ反映されることとが期待されていることから、ジェネリック医薬品の使用促進に向けたさらなる取組が必要となります。

沖縄支部では、健康づくり包括推進を継続した一般社団法人沖縄県薬剤師会などの関係機関と連携を図りつつ、軽減額通知をはじめとする加入者の皆様への積極的な広報活動を通じて、ジェネリック医薬品の使用促進に今後とも取り組んでまいります。

ジェネリック医薬品の使用促進について、ぜひ各医療機関で取り戻っていただきますようお願いいたします。

【添付資料】
 1. 協会けんぽ ジェネリック医薬品軽減額通知 年度別削減総額
 2. 協会けんぽ ジェネリック医薬品軽減額通知(年度別)
 3. 協会けんぽ医療費総額 ジェネリック医薬品削減割合
 4. 協会けんぽの削減率 ジェネリック医薬品削減率(前年同月比)

報道関係者各位

平成29年3月9日

Press Release

全国健康保険協会 沖縄支部
http://www.jshkaokanpo.or.jp/

【お問い合わせ先】
 〒900-8512 那覇市安里11-4 おきでACU-9 全国健康保険協会沖縄支部 総務・大塚 真山
 TEL:098-951-2248 FAX:098-951-2285

国の目標値80%を突破！ジェネリック医薬品の使用割合80.4%
 ～協会けんぽ支部別で全国第1位 負担軽減のための更なる使用促進を図る～

平成28年10月診療分の調剤レセプト(電子レセプトに換算)を基にジェネリック医薬品の使用割合を算出したところ、沖縄支部の使用割合が30.4%となり、全国(協会けんぽ支部別)に先駆け初めて80%の大台を突破しました。

ジェネリック医薬品(後発医薬品)は、新薬(先発医薬品)と同等の有効成分 効能があるが厚生労働省から承認されている安価なお薬です。ジェネリック医薬品を普及させることは、患者負担の軽減や医療費削減の取組につながります。そのため、厚生労働省では、平成25年4月に「後発医薬品のさらなる使用促進のためのロードマップ」を策定し、さらに、平成27年8月の閣議決定において、「平成30年度末から平成32年度末までの間のなるべく早い時期に80%以上とする」としています。

協会けんぽでは、ジェネリック医薬品を普及させる取組の一環として、処方されたお薬をジェネリック医薬品に切り替えた場合の自己負担軽減額をお知らせする通知をお送りしているほか、沖縄支部においては、一般社団法人沖縄県薬剤師会と連携してジェネリック医薬品の普及促進を目的としたセミナーを開催しています。

沖縄支部のジェネリック医薬品使用割合は、新発薬による使用割合となった平成25年4月以降、全国1位の状況が続き、平成28年10月診療分の調剤レセプトを累計した結果、80.4%となり、全国平均68.8%に11.6%の差をつけて、国が定めている目標値80%を達成しました。

協会けんぽでは、ジェネリック医薬品の使用割合等が都道府県別保険料率へ影響を与えることから、今後も使用促進に向けた更なる取組が必要となります。

沖縄支部では、引き続き一般社団法人沖縄県薬剤師会などの関係機関と連携を図りつつ、軽減額通知をはじめとする加入者の皆様への積極的な広報活動を通じて、ジェネリック医薬品の使用促進に取り組んでまいります。

【添付資料】
 1. 協会けんぽ ジェネリック医薬品軽減額通知(支部別)
 2. 協会けんぽ医療費総額 ジェネリック医薬品削減割合

(医療機関及び薬局への働きかけ)

平成30年2月に県内の医療機関698件及び調剤薬局524件に対して、各医療機関及び調剤薬局のジェネリック医薬品使用割合について県平均や二次医療圏平均と比較できる「ジェネリック医薬品に関するお知らせ」を送付しました。

ツールに収録されている県内の全医療機関及び全調剤薬局に送付したものであり、事前に沖縄県医師会及び沖縄県薬剤師会に説明し、了承を得たうえで実施しています。沖縄県では沖縄県医師会及び沖縄県薬剤師会もジェネリック医薬品使用促進に積極的であり、ジェネリック医薬品を推進する環境が整っていると云えます。

また、沖縄支部の健康づくり推進協議会において、薬剤師会代表の委員からはジェネリック医薬品に関するお知らせについて「当病院ではこれだけのジェネリック医薬品の処方割合があるのかと驚きの声があがるなど、職員の意識もすごく高まった。当病院の薬をうけている薬局上位5薬局までの割合も確認できて非常によかった」とのお褒めの言葉もいただきました。このように沖縄県は県医師会、県薬剤師会が積極的にジェネリック医薬品を推奨しており、協会けんぽを含めた三者で協力してジェネリック医薬品使用促進に取り組んでいることが現在もジェネリック医薬品使用割合全国1位を維持できている要因であると思われます。

●ジェネリック医薬品に関するお知らせ

ジェネリック医薬品経銷通知をお送りしております

お知らせです。処方されたジェネリック医薬品についてお知らせいたします。処方されたジェネリック医薬品についてお知らせいたします。処方されたジェネリック医薬品についてお知らせいたします。

品名	ジェネリック品名	ジェネリック品名	ジェネリック品名
アスピリン	アスピリン	アスピリン	アスピリン
イブuprofen	イブuprofen	イブuprofen	イブuprofen

ジェネリック医薬品特約店をお送りしております

お知らせです。処方されたジェネリック医薬品についてお知らせいたします。処方されたジェネリック医薬品についてお知らせいたします。処方されたジェネリック医薬品についてお知らせいたします。

特約店一覧

特約店一覧

ジェネリック医薬品に関するお問い合わせ

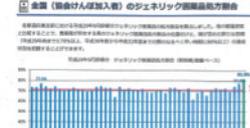
お問い合わせ

品名	ジェネリック品名	ジェネリック品名	ジェネリック品名
アスピリン	アスピリン	アスピリン	アスピリン
イブuprofen	イブuprofen	イブuprofen	イブuprofen

ジェネリック医薬品特約店をお送りしております

お知らせです。処方されたジェネリック医薬品についてお知らせいたします。処方されたジェネリック医薬品についてお知らせいたします。処方されたジェネリック医薬品についてお知らせいたします。

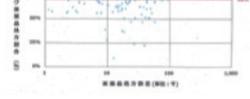
品名	ジェネリック品名	ジェネリック品名	ジェネリック品名
アスピリン	アスピリン	アスピリン	アスピリン
イブuprofen	イブuprofen	イブuprofen	イブuprofen



品名	ジェネリック品名	ジェネリック品名	ジェネリック品名
アスピリン	アスピリン	アスピリン	アスピリン
イブuprofen	イブuprofen	イブuprofen	イブuprofen

ジェネリック医薬品処方割合の位置付け（沖縄県内）

位置付け



品名	ジェネリック品名	ジェネリック品名	ジェネリック品名
アスピリン	アスピリン	アスピリン	アスピリン
イブuprofen	イブuprofen	イブuprofen	イブuprofen

ジェネリック医薬品の処方率に合わせた処方箋

処方箋

品名	ジェネリック品名	ジェネリック品名	ジェネリック品名
アスピリン	アスピリン	アスピリン	アスピリン
イブuprofen	イブuprofen	イブuprofen	イブuprofen

(行政への働きかけ)

沖縄県では平成 27 年当時全国で唯一、後発医薬品安心使用促進協議会が未設置でしたが、支部から県に協議会設置について働きかけ、平成 28 年 8 月に第 1 回目の協議会が開催されました。平成 30 年 3 月 15 日には第 2 回目の沖縄県後発医薬品安心使用促進協議会が開催され、沖縄支部からは支部のジェネリック医薬品使用促進の取組について説明しました。今後も沖縄県に対し、年 1 回の沖縄県後発医薬品安心使用促進協議会の開催及び県全体でのジェネリック医薬品使用促進の取組について要望してまいります。

3. おわりに

沖縄支部では直近のジェネリック医薬品使用割合が 86.5%と高く、これからはジェネリック医薬品使用割合の伸びが鈍化していくことが予想されます。今後は診療所など院内処方の多い医療機関や処方量の多い大規模な医療機関への細やかな対応やポイントを絞った対応が課題となっており、それに向けて取り組んでまいります。

日本ジェネリック製薬協会及び会員の皆様には、さらなるご支援をお願い申し上げます。